

## 医療的ケア児支援のための人材育成実施状況

### 1 東京都医療的ケア児支援者育成研修

【目的】 地域での支援に関わる関係機関職員に対し、医療的ケアが必要な障害児について基本的な理解を促し、支援者として人材育成を図り、支援の拡大を図る。

【対象】 医療的ケア児の支援に関わる多様な職種（行政障害福祉、保健衛生職員、相談支援専門員、保健師、訪問看護師、児童発達支援・放課後デイサービス職員等）

【開始年度】 平成29年度

【開催方法】 平成29年度から令和元年度まで 集合形式で開催  
令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、YouTubeにて2月12日から3月5日まで動画配信。

【受講状況】

|         | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 |
|---------|-------|-------|------|------|
| 受講者数（人） | 365   | 279   | 214  | 858  |

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、Youtubeでの動画配信。申込者数を記載。

【令和2年度の実施状況】

○Webで実施したことにより、感染対策を図った上で実施することができた。

○庁内関係部署の協力を得て、周知範囲を拡大したことにより、幅広い職種が受講した。

看護師 45.1%、保育士 12.8%、その他 17.1%（児童発達支援、放課後支援員、学童クラブ職員、福祉行政管理職や事務職等）

○受講後のアンケートからの感想（集計中のため、一部を紹介）

- ・研修期間中、繰り返し学習することができたため、理解が深まった。
- ・医療的ケア児の現状や家族の思いを知ることができた。
- ・新年度から、医療的ケア児を受け入れることになったため、医療的ケア児の課題や支援について学ぶことができ、良かった。

○アンケートの中で、現在は医療的ケア児の支援に携わっていないが、今後携わる可能性があると回答した人は約240人だった。

○課題

- ・地域の保育園等で受入が進んでいる現状を踏まえ、保育関係者による講義も検討する。

【令和3年度の予定】 1回：Webでの動画配信にて、第三四半期を予定。

## 2 東京都医療的ケア児コーディネーター養成研修（都立小児総合医療センターに研修委託）

【目的】 医療的ケア児の支援を総合調整する医療的ケア児コーディネーターを養成し、医療的ケア児が地域で安心して暮らしていくことができる体制を整備する。

【対象】 相談支援専門員、保健師等

【開始年度】 平成30年度

【開催方法】 平成30年度から令和元年度まで 集合形式で開催  
令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、講義：eラーニング（11月30日から12月11日まで）、演習はWeb（①12月25日・26日 ②1月10日・11日）で実施。

### 【受講状況】

|       | 受講者決定者 | 修了証発行者数 | 累計養成数 |
|-------|--------|---------|-------|
| H30年度 | 113    | 76      | 76    |
| R元年度  | 100    | 90      | 166   |
| R2年度  | 61     | 56      | 222   |

※R元年度修了証発行者数90名のうち3名はH30年度の講義受講者を含む  
※都立小児総合医療センターに委託して実施

※修了生のフォローアップとしての症例検討会は、Webで4回開催。  
延べ92名（区39名、多摩地域53名）の参加

### 【令和2年度の実施状況】

○秋頃、新型コロナウイルス感染症患者が増加傾向にあり、より一層の感染対策が求められたため、演習をオンライン形式に切り替え実施した。

○受講生の中にはWebでの研修を心配する人もいたが、事前に接続テストを行い、ネットワーク環境を確認し、実施した。

○演習事例は、呼吸器を装着した乳児であったが、2年後にはその子なりの発育発達が見られ、呼吸器を離脱し、歩行も可能になり、新たなきょうだいを迎えるという事例であった。終了時の振り返りでは、次のような感想が多かった。

- ・子どもの視点で生活や遊びをとおして、成長発達を促せるような支援計画を立案できて良かった。
- ・普段は一人職場で相談ができないが、研修では様々な立場の受講生の意見を聞くことができた。
- ・事前課題ではうまくまとめることができなかったが、アセスメントに必要な情報に気づくことができた。

○多摩地域の自治体では次年度地域生活支援拠点を立ち上げるにあたり、コーディネーターを配置するため、研修を受講したところもあった。

【令和3年度の予定】 開催回数 1回：講義、演習ともWebで実施。  
症例検討会 4回／年